

みながわひろてる
皆川広照 (1548~1627)

皆川広照像 (皆川城内町の金剛寺蔵)



かわはらだかっせん
川原田合戦から、25
みながわひろてる
年後、皆川広照が生まれ
ひろてる
ました。広照が生まれた
のぶなが ひでよし
年、信長14才、秀吉1
いえやす
1才、家康6才でした。
げんざい
このころになると現在の
かんとうちほう えちごのくに
関東地方では、越後国の
せんごく だいまょう うえすぎ けん しん
戦国大名上杉謙信と
お だ わらじょう ほうじょううじやす
小田原城の北条氏康が
りょうち あらそ
領地を広げようと争う

ようなりました。みながわ し
皆川氏のような小さな勢力の大名は、どちらの
せいのりよく だいまょう
味方につくか悩みます。
みかた なや

うえすぎけんしん ほうじょううじやす だいちゅうじ にしやまだ
1567年、上杉謙信と北条氏康は、大中寺 (大平町西山田) で
なかなお てきみかた わ みながわ し
仲直りしましたが、また敵味方に分かれてしまいました。皆川氏の
しゅうへん ふあんてい せんごくじだい しもつけのくに げんざい とちぎけん
周辺はいつも不安定でした。戦国時代には、下野国 (現在の栃木県)
ぶししょう じぶん りょうち あらそ
でも多くの武将が、少しでも自分の領地を広げようと争ってしま
た。

1584年、北条氏康のあとをついだ氏政が、八万の大軍を率いて下野国にやってきました。北条軍は大平山を占領しました。広照は、草倉の地（志鳥町）でくいとめようとしたので、合戦はとても激しいものとなりました。この戦いは、三ヶ月にわたりましたが、勝負がつかず、1586年、徳川家康の提案で停戦となりました。（条件として、広照と北条氏政の養女が結婚することになりました。）

1590年、豊臣秀吉が全国を統一するため小田原城を攻めました。下野の武将たちは、北条氏につくか秀吉につくか決断を迫られます。広照は、武士の義理から小田原城に入りましたが、小田原城が秀吉軍に包囲されると、広照とその家来は、城から抜け出して家康の軍に降伏します。結局、北条氏は滅びました。広照は、この戦いの後に、家康の家来として「皆川領三万五千石をそのまま治めてよい」と認められました。

この後、広照は城下町栃木の建設に取り組みます。水上交通路として巴波川に目をつけ、1591年（天正十九年）に栃木城をつくり始めました。家康の子忠輝を預かって育てたりしていましたが、1609年（慶長十四年）忠輝とのもめごとにつけ込んだ幕府の

せいさく
政策により、みながわし
皆川氏は取りつぶしとなってしまいました。とつぜんりょうち
突然領地を

ほっしゅう
没収され、わずか十九年で栃木城はとこわ
取り壊されてしまいました。

しかし、1623年（元和九年）ばくふ
幕府から三代しょうぐんいえみつ
将軍家光のほさやく
補佐役と

して声がかかり、げんざい
現在のいばらきけんいしおかし
茨城県石岡市でだいまよう
一万石の大名としてふっかつ
復活し

たのです。そして、1627年（かんえい
寛永四年）八十年の人生をしず
静かに閉

じました。ひろてる
広照は、現在、みながわじょうない
栃木市皆川城内町にあるこんごうじ
金剛寺でしず
静かに

ねむ
眠っています。

（「栃木市のあゆみ」栃木市教育委員会から）

栃木城の跡（栃木市城内町）

